

(1) 令和元年度 教職員による自己評価 及び 学校関係者評価

静岡雙葉中学校・高等学校

評価項目		自己評価	学校関係者評価	
1	宗教教育の充実・精神性の涵養 ①宗教の授業、宗教行事、聖堂での朝の祈り、朝礼時に聖歌を歌うことを通して、豊かな心を育む。 ②精神性を育むために、学年毎の1年間の経営計画に則って、多面的に活動する。 【実践と自己評価】①学年の宗教行事は、それぞれ経験豊かな神父様の指導により大変充実している。 ②学年経営計画では、学年に合わせて精神性の涵養を目指した様々な取組みが実施された。 【学校関係者評価を受けて】カトリック学校として、今後も生徒達の精神的な成長を見据えた宗教教育を、マンネリ化することなく、工夫しながら多面的に実施していきたい。	A	A	宗教教育は正に雙葉の教育の要である。宗教の授業や宗教行事が充実してきたことを評価したい。特に宗教行事は、生徒だけでなく、教員にとっても自己の成長につながるものなので、大事にして欲しい。
	学習指導の充実・学力の向上 ①学年毎の教育計画、各教科の実践計画に基づき、計画的に教科教育を実施する。 ②基礎・基本の定着、授業中心の学習体制の確立により、学力の向上を図る。 ③教員1人ひとりがより良い授業を行なうための具体的な取組みを行う。 ④今年度中3より導入される生徒1人1台のiPad等、ICT機器を有効に活用し、主体的学習やアクティブラーニングを取入れた授業展開について更に研究し、実践する。 ⑤知的好奇心を高めるため、また視野を広げるため、海外研修、英語検定試験等の各種検定、大学が企画するセミナー、公開講座への積極的参加を促す。 【実践と自己評価】①計画に基づいて指導を進めつつ、生徒の実態に応じた勉強会や自習会も行われた。 ②中一では学習習慣の定着、学習時間の確保、中二では学習方法についてアドバイスするなど、授業を中心に学力の向上が図れるように具体的に指導している。中三では夏休み中に学外講師による講座を実施した。 ③④iPad等を使った双方向の授業が研究され、また部活動でもiPadが有効に使用されている。特に中三では3月からの臨時休校中も、個人用iPadによって、担任とのやり取りが頻繁に行われた。 ⑤英検をはじめ、各種検定試験に挑戦し資格を取得した生徒も年々増加している。 【学校関係者評価を受けて】6ヶ年を見通した指導計画に基づきながら、教員1人ひとりの授業力の向上を目指し、一層の努力をしたい。ICT機器の有効利用については、全教科で研究を進める必要がある。	A	A	各教科で、6ヶ年の指導計画のもとに学習指導がなされていること、また、中学生の学習習慣定着に向けた取り組みも、具体的に実施されている点が評価できる。1学年で導入が始まった生徒1人1台のiPadも、できるだけ早く全校生徒に広がるよう計画の前倒しを検討するなど、ICT機器を更に有効に使用できるように検討、研究を進めて欲しい。また、学外の講師による講座など、生徒の視野を広げる企画や試みは、今後も積極的に取り入れて欲しい。
3	自律性や社会性及び公共心の育成(生徒指導) ①基本的な生活習慣の確立に努める。 ②自立心、公共心及び社会的規範意識の育成を図るとともに、スマートフォンやインターネット、SNSの功罪、注意点について学ぶ。 ③社会性、自治能力、自律心の育成を図るため、生徒会活動、委員会活動、学級・学年活動を充実させる。 ④豊かな精神性を培うため、福祉施設(クリスマス)訪問、ボランティア活動、各種献金活動を充実させる。 【実践と自己評価】①成長段階に合わせた形式の手帳によって、時間管理の意識を育成している。 ②スマホの使用に関して家庭と連携を図り、適切な使用ができるように指導を継続している。高1、高2では、最新のSNSをめぐる状況の変化や、特性、危険性について学び、モラルの在り方について学んだ。 ③④あしなが学生募金活動や発展途上国の子供の支援活動などには、今年も多く生徒が参加した。また、高1有志の生徒による自発的なバザーによる募金活動も企画実施された。 【学校関係者評価を受けて】スマートフォンの使い方だけに限らず、基本的な生活習慣の確立や公共心の育成のためにも、できる限り家庭と連携していきたい。様々な支援活動は、今後も生徒たちの発案を大切にしたい。	A	A	基本的な生活習慣や公共心、社会的規範意識を身に付けることは、将来社会人として生きていくために必要不可欠なことである。大切に育てて欲しい。スマートフォン、インターネットの使い方や、SNSについての注意点は最新の情報をもとに啓発活動を続けて欲しい。毎年の募金活動だけでなく、様々な活動に多くの生徒が参加したことや、生徒たちからの発案で新しい企画が実施されたことは素晴らしい。
	たくましく未来を切り開く力の育成(進路指導) ①著名人や大学教授、先輩等による講演、校外のオープンセミナー、大学見学、海外研修等の様々な体験活動等への生徒の積極的参加を促す。 ②大学入試の最新情報を把握し、的確な進路情報を生徒・保護者に提供する。 ③今年度中3次より始まる「コース制」における様々な取組みを、着実に実施する。 【実践と自己評価】①中二では、11月に卒業生による講演会を開催し、中三からのコースの選択に向けて、多くの刺激を受けることができた。高1では大学出張講義を実施。また、6月にはシンガポールの姉妹校の生徒が、10月には台湾の暁明女子高校の生徒が来校し、交流を深めた。夏のイギリス研修に高1、中三が計26名が参加した。 ②大学入試の最新情報を把握するための研修会や新カリキュラムの研修会に、多くの教員が積極的に参加した。 ③「21世紀型スキルを学ぶ教材」ENAGEEDを使った学習や、校外での様々な体験学習、理科4分野の体験学習、理科の8つのテーマによる模擬研究など、時間をかけて準備してきた企画が実施され、確かな実りがあった。 【学校関係者評価を受けて】次年度より実施される新しい大学入試については、不透明なことも多いが、常に最新の情報を把握し、生徒、保護者に提供すると共に、授業や進路指導のプログラムに活かしていきたい。	A	A	生徒が自分の進路について考え、選択できるように様々な取組みが考えられ、実施されていることが評価できる。大学入試新テスト等、変化していく教育情勢について、生徒、保護者への情報提供を活発に行い、生徒1人ひとりの志の実現を支援して欲しい。中三から始まったコース制の取組みは、とても工夫されており、綿密な準備の成果が感じられる。上級学年での活動に旨く継続することを期待する。
5	生命の安全確保 ①大規模災害に備え、総合的防災マニュアルを更に見直し、実践につなげる。 ②災害時、学校への宿泊を想定した防災備品の充実を図る。 ③年度計画に基づき、校内施設、設備の点検、特に防火設備、防災設備の点検を確実にこなす。 ④生徒が、自分の命を自分で守れるよう、防災訓練等をより実践的のものにして、地震・火災等への防災意識と危機対応能力を高める。 【実践と自己評価】①地震発生時における教員の対応の要点マニュアルの今年度版を全員に配布、掲示した。 ②卒業時に乾パンや飲料水を持ち帰らせるなど、消費期限にも配慮した備蓄品の管理を行っている。 ③全て計画通り、年度内に点検を行った。 ④長期休暇明けごとに避難訓練や防災講座等を行った他、生徒に予告なしの地震避難訓練も実施した。また、クラスの代表生徒に備蓄品の保管場所を確認させ、緊急時の行動に備えさせた。 【学校関係者評価を受けて】防災マニュアルは、地震発生時に限定せず、近年の様々な自然災害にも備えて、見直しを継続したい。防災意識と危機対応能力を高めるための取り組みも、いろいろ工夫していきたい。	B	A	大規模災害に備え、耐震性の高い校舎、防災備品の充実、毎年の点検実施など、生徒が安心して学校生活を送れる体制が整っており評価できる。緊急時の対応マニュアルについては、常に見直し、現状に即したものにしていける必要がある。また、様々な場面を想定した対応を生徒に考えさせることも、継続して欲しい。
	(学校側のまとめ) 生徒による卒業時のアンケートの記述や安定した進学状況から、宗教行事や生徒の精神面、学習面の成長を図るための様々な取組みが軌道に乗り、着実に成果があがっていると実感できる。中三から始まったコース制の取組みも、教員たちの熱心な準備と関わりにより、良いスタートを切ることができた。今後、コース制は上級学年に広がっていくが、それが確かな成長に繋がるよう、努力を続けたい。	(学校関係者評価委員会のまとめ) この学校評価を通して、教員全体の教育活動についての意識が高まり、静岡雙葉学園全体として質の高い教育実践がなされていることを評価したい。中三から始まったコース制は、時間をかけて準備してきた教職員の努力と情熱により、魅力的なものとなっていると感じる。今後も、ICT機器の有効利用の促進など、努力を重ね、充実した教育活動を展開し、更なる成果を期待したい。		

自己評価 : A 良くできた B できている C 改善を要する D より努力が必要

学校関係者評価 : A 大変評価できる B 評価できる C 改善を要する D 評価できない